

ちぬの浦いさな寄るなるをちかたは

ひねもす霞む海恋しけれ

歌  
意

茅渟ちぬめ（大阪湾の東部）の入海よ。鯨が寄って来るといふその  
沖は、「春になると何時も何時も眠ったままのやうにどんよりと  
霞んで居る」（『短歌三百講』）。その海が恋しくてたまりません。

掲出歌集 『舞姫』明治39（1906）年1月  
初出 「明星」明治38年9月号（晶子27歳）

夕されば浜の出島のうたひめの

島田にまじりかはほりぞ飛ぶ

歌  
意

夕方になると、海辺の出島（現、堺市堺区出島町）の、歌姫  
たちの島田鬻に交じてこうもりが飛んでいます。

掲出歌集 『佐保姫』明治42年5月  
初出 「明星」明治41年7月号（晶子30歳）

